

海森水の「分類 1: 自活力育成型」が最も優れている理由

●分類 1～3 セラミドケア比較説明表

本表は、肌のバリア構造・機能を「レンガとセメントの壁」に例えて説明するための表です。

項目	分類 1: 自活力育成型 (根本)	分類 2: 自活力代替型(対処)	分類 3: 角層バリア 構造補強型(対処)
製品の目的	肌質そのものを変える	バリア機能を一時的に代替え	バリア構造を一時的に補強
ケアの主体	肌自身(内側)	化粧品(外側)	化粧品(外側)
バリア機能の改善場所	顆粒層から新しいアシルセラミドが作られる段階	角層(バリア構造の隙間)	角層(バリア構造の隙間)
主要な役割	【設計図と材料の提供】 肌が自ら特別なセラミドを生成する能力を高める。	【仮の代用品を設置】 特別なセラミド補給で、失われたバリア機能を一時的に引き継ぐ。	【不足材料の補充】 ヒト型セラミドなど補給で、失われたバリア構造を一時的に引き継ぐ。
代表的な成分	アシルセラミド形成不可欠成分(例: リノール酸)	合成アシルセラミドなど	ヒト型セラミド系、ヒアルロン酸系
恒久性	恒久的な回復を目指す。バリア機能が低下した時に使用すれば、自活力は向上。	供給を止めると機能維持が困難	供給を止めると機能維持が困難

●説明のポイント(実演販売トークの例)

お客様への説明時には、以下のポイントを強調して、分類 1 の優位性を際立たせます。

- 壁の例え:
 - 分類 1: 「これは、最高品質の壁を作るための『レシピ(設計図)』と『必須の建材』を、壁(肌のバリア構造・機能)を作る職人(顆粒細胞)に与え、その育成に投資することで、肌は自分で強く健やかな壁を作れるようになります。」
 - 分類 2・3: 「これらは、壊れた壁にセメントやパネルを貼り付ける応急処置です。一時的に雨風は防げますが、職人(自活力)は育ちません。」
- 目的の違い:
 - 「私たちの分類 1 は、『乾燥を繰り返さない肌』を作ることが目的としていますが、分類 2, 3 は『乾燥を感じさせない肌』という対処が主眼です。」
- 成分の違い:
 - 「分類 1 の成分(リノール酸など)は、肌が健やかな壁を作るための『設計図』や『建材』です。一方、分類 2, 3 の成分(ヒト型セラミドなど)は、『出来上がった壁の部品』を外部から運び込んで隙間に埋めるイメージです。」大切なのは、肌が外から部品を運んでもらうことに頼るのではなく、自分で完璧な壁を作れるようになることです。」

この比較図と解説文は、海森水の「自活力育成型」が、市場の主流なセラミドケア(補給・代替え)よりも、いかに根本的で高度なアプローチであるかを、明確に伝える手助けになるでしょう。